

M7CL V3 ファームウェア

主なアップデート内容

Firmware V3.55

修正した不具合

- ファームウェア V3.54 で、バーチャルラック 5-8 に GEQ を使用する際、マウント時やシーンリコールでの切り替わり時など M7CL 本体がフリーズする場合があります不具合を修正しました。

Firmware V3.54

既知の不具合

- GEQ 使用時の M7CL 本体フリーズ不具合について：本バージョン V3.54 において、バーチャルラック 5-8 に GEQ を使用する際、マウント時やシーンリコールでの切り替わり時などに、M7CL 本体がフリーズする場合があります。

修正した不具合

- (M7CL-48ES のみ)ワードクロックが変わったときに、Direct Out の音が出なくなることがある不具合を修正しました。
- 外部ヘッドアンプのリモート操作の安定性を向上させました。これにより以下の症状が改善されました。
 - 通信の切断
 - AD8HR を AD824 と誤認識
 - ゲイン量が表示と異なる
- Flex15GEQ において、コピー元やリコールデータと異なるバンドが設定されている FLEX15GEQ にペーストやリコールを実行すると、正しく設定が反映されない不具合を修正しました。

Firmware V3.52

修正した不具合

- M7CL-48において、INPUT 端子 1~32 および ST IN 端子 1~4 からの信号と、INPUT 端子 33~48 からの信号とで、音の遅延時間が異なる不具合を修正しました(2 サンプル)。また、M7CL-32 も同様の調整をしました。M7CL-48ES では、この不具合は発生しません。

Firmware V3.51 for M7CL-48ES

修正した不具合

- M7CL-32/48/48ES と外部ヘッドアンプを MY カードスロット経由で接続したときに生じる以下の不具合を修正しました。
 - リコールセーフ機能で外部ヘッドアンプの設定が保持されない。
 - インพุットチャンネル 1~6 のうち外部ヘッドアンプをパッチしたチャンネルに対し、HA を選択してグローバルペーストを実行すると、ペースト先として選択されていないチャンネルにペーストされてしまうことがある。
- Ethernet 端子経由で予期しないデータが M7CL に送信された場合に、M7CL がごくまれにフリーズする不具合を修正しました。(M7CL StageMix が M7CL に接続された時など)

Firmware V3.04

修正された不具合

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、MIX/MATRIX チャンネルの ALL および WITH MIX/MATRIX SEND をリコールセーフに設定したときにそのチャンネルの OUTPUT PATCH がリコールセーフされない不具合を修正しました。
- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、あるチャンネルの ALL または OUTPUT PATCH をリコールセーフに設定したときに、SAFE ボタンが OFF になっているほかのチャンネルの OUTPUT PATCH もリコールセーフされてしまうことがある不具合を修正しました。
- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで以下の設定をした場合、INPUT チャンネルの INSERT PATCH と DIRECT OUT がリコールセーフされない不具合を修正しました。
 - SAFE PARAMETER SELECT フィールドで INPUT チャンネルの ALL をリコールセーフに設定する。
 - GLOBAL RECALL SAFE フィールドで OUTPUT PATCH をリコールセーフに設定する。

- INPUT チャンネルの ALL をリコールセーフに設定し、フォーカス機能で IN PATCH が選択されているシーンをリコールしたときに、その INPUT チャンネルの INSERT PATCH と DIRECT OUT がリコールセーフされない不具合を修正しました。
- M7CL-48ES で、INPUT チャンネル 13~16 が SLOT と OMNI OUT にダイレクト出力されない不具合を修正しました。
- M7CL-48ES で、INPUT チャンネル 1 と 13 のダイレクト出力先を SLOT あるいは OMNI OUT に設定している場合、INPUT チャンネル1のダイレクト出力が、INPUT チャンネル 13 のダイレクト出力先にも出力されてしまう不具合を修正しました。INPUT チャンネル2と14、3と15、4と16の組み合わせでも同様です。

改善点

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、GLOBAL RECALL SAFE フィールドの OUTPUT PATCH の設定が SAFE PARAMETER SELECT フィールドの該当する設定 (OUTPUT PATCH、DIRECT OUT のアウトプットパッチ、INSERT PATCH のアウトプットパッチ) よりも優先されるように変更しました。

Firmware V3.03

修正された不具合

- GLOBAL RECALL SAFE フィールドで「INPUT PATCH」のリコールセーフを設定している際に、CH RECALL フィールドの「HA」リコールセーフ設定が無効になる不具合を修正しました。

Firmware V3.02

修正された不具合

- M7CL-32/48 において、スロット 1 およびスロット 2 の出力ポートのディレイを使用した際に、音声为正しく出力されなくなる場合(ミュートされるなど)がある不具合を修正しました

Firmware V3.01

新機能

- VIRTUAL RACK ウィンドウの GEQ/EFFECT で、RACK5~8 にマウント可能なエフェクトタイプとして、以下の VCM エフェクトが追加されました。
 - COMP276, COMP276S, COMP260, COMP260S, EQUALIZER601, OPENDECK

- SENDS ON FADER モードのとき、[MIX/MATRIX]エンコーダーを押すことで、送り先のバスが選択できるようになりました。
- Stage Box Data Conversion 機能が追加されました。
従来は外部 HA を使用するシステムと内蔵 HA を使用するシステムのデータには互換性がありませんでしたが、以下の組み合わせにおいて相互にデータ変換ができます。
- 「スロット経由で外部 HA を使用するシステム」と「内蔵 HA を使用するシステム」の組み合わせ
- 「M7CL-48ES システム」と「スロット経由で外部 HA を使用するシステム」の組み合わせ
「M7CL-48ES システム」と「内蔵 HA を使用するシステム」はデータに互換性があるため変換する必要はありません。
- SAVE/LOAD ポップアップウィンドウで、ファイルを保存したときのファームウェアのバージョンが表示されるようになりました。
- INPUT TO TALKBACK に割り当て可能な入力ポート候補に、ST IN 1L~4R が追加されました。
- ユーザー定義キーに割り当て可能な機能として、M7CL EDITOR CONTROL - SENDS ON FADER が追加されました。

改善点

- RECALL SAFE MODE ポップアップウィンドウで、以下のパラメーターを個別にリコールセーフ ON/OFF 設定できるようにしました。
- インput系チャンネル: INPUT PATCH, INSERT PATCH, INSERT, DIRECT OUT
- アウトput系チャンネル: OUTPUT PATCH, INSERT PATCH, INSERT
- INPUT CH LIBRARY ポップアップウィンドウに、+48V インジケーターを追加して、リコールする前に+48V の状態がわかるようにしました。
- GLOBAL PASTE ウィンドウの PATCH/NAME ページで、INPUT PORT PATCH および OUTPUT PORT PATCH ボタンに名称を変更し、グローバルペーストの対象パラメーターを入力ポートと出力ポートに分類しなおしました。
- INPUT チャンネルで GEQ をインサートしたあと、GLOBAL PASTE - INPUT PORT PATCH を実行したとき、INSERT OUT パッチも自動で GEQ にパッチするようになりました。
- INPUT チャンネルで GEQ をインサートしたあと、GLOBAL PASTE - OUTPUT PORT PATCH を実行したとき、INSERT IN パッチも自動で GEQ にパッチするようになりました。
- グローバルペーストで、インサートにかかわるパッチ情報をペーストしたことで GEQ のパッチが解除される場合に、インサートされていたチャンネルの INSERT が自動で OFF になるようにしました。

- VIRTUAL RACK ウィンドウの GEQ/EFFECT で、RACK5 の初期エフェクトを REV-X HALL に、RACK6 の初期エフェクトを REV-X ROOM に変更しました。
- ユーザー定義キーの初期設定を、以下のように変更しました。
 - [1] SENDS ON FADER - MIX ON FADER
 - [2] SENDS ON FADER - MATRIX ON FADER
 - [3]-[8] PAGE CHANGE - PAGE BOOKMARK
 - [11] HOME - MOMENTARY
 - [12] TALKBACK - TALKBACK ON - UNLATCH
- BUS SETUP ウィンドウの MATRIX BUS SETUP ページの PRE FADER SEND POINT を、PRE FADER SEND POINT for Input Channels に名称変更しました。
- M7CL の内蔵メモリーの初期化が終了したときに、"To close the startup menu screen, press the EXIT button. Or, select a mode."と表示するようにしました。

補足

- グローバルペーストで OUTPUT に含まれるパラメーターは、ALL 選択時と WITH MIX SEND/WITH MATRIX SEND 選択時で一部異なります。ALL 選択時は、SIGNAL TYPE(STEREO/MONOX2)および PAN LINK が含まれますが、インプット系チャンネルからの SEND PAN は含まれません。WITH MIX SEND/WITH MATRIX SEND 選択時は、SEND PAN が含まれますが、SIGNAL TYPE および PAN LINK は含まれません。
- インプット系チャンネルにチャンネルリンクが設定されているシーンにグローバルペーストを実行した場合、ペースト対象のインプット系チャンネルだけにペーストされます。
- M7CL V1 で保存した設定ファイルを M7CL V3 本体にロードした場合、ロード直前のチャンネルライブラリーはクリアされず残ります。M7CL V1 で保存した設定ファイルを M7CL V3 Editor にロードした場合は、ロード前のチャンネルライブラリーはクリアされます。
- M7CL V3 Editor とオンライン状態で、Administrator ユーザーがログインしている場合、Guest のユーザーレベル設定の変更は同期操作(Re-synchronize)したときだけ M7CL V3 Editor に反映されます(リアルタイムには反映されません)。